

【説明概要】

●環境省から次の内容について説明があった。

◇資料により日本環境安全事業株式会社（JESCO）大阪事業所の PCB 廃棄物処理事業の概要について説明

◇PCB 処理事業の進捗状況と課題

- ・ JESCO 大阪事業所では、トランス類は 60%、コンデンサ類は 54%処理終了している。
- ・ 安全対策や技術的な改善対策等の課題に対応した結果、処理に遅れが生じている。

※今後の処理促進策（案）

- ・ 処理対象区域を越えた各事業所の相互活用
- ・ 処理対象物の拡大

◇JESCO 大阪事業所の処理期間を最長平成 36 年度まで延長

●大阪市環境局から、大阪市内の PCB 廃棄物処理状況について説明があった。

- ・ 大阪市内の PCB 廃棄物の処理状況は、平成 25 年 10 月末現在で、JESCO で登録されているもののうち、コンデンサ類は約 90%の 11,200 台、トランス類は約 77%の 1,000 台の処理が終わっている。

【主な意見等】 → は事務局からの回答

- ・ PCB 廃棄物の処理状況について、大阪市内だけでなく近畿 2 府 4 県分と行政への届出件数のトータルの量を出すべき。
→ トータルの台数でお示しするようにしたい。
- ・ 処理期間が約 10 年延長することとなった原因について、処理を始める前からある程度わかっていたのではないか。
→ PCB の揮発量が想定よりも高いことが操業開始後にわかり、作業環境の改善のため排気設備の追加対策などにより最初の数年間は処理量が低くなってしまった。
- ・ この施設での処理が終了した後、事業用地は市に返還されるのか。
→ 土地については、JESCO が所有しているが、今の時点では、事業終了後どのように使うのかは決まっていない。地元の皆さんと相談し検討していかなければならない課題と思っている。
- ・ 地震や浸水対策についてどうなっているのか。
→ 南海トラフの大地震による津波が来ても余裕のある高さに施設が立地している。地震対策については、何かあった場合は開口部を閉じて内部に封じ込める設計になっている。また、電源が切れたときは、運転が安全に止まるようになっている。
- ・ 行政へ未届けのものを把握していくこととしているが、今後、処理量が増え、また、処理が困難な新たな機器が出てくれば、処理期間を再度延長することになるのではないか。
→ 未届けのものが出てきても、処理期間を延長しなければならないほどの台数は出てこないと考えている。
- ・ 当初の約束と違う。今回はきちんとできると責任を持って言えるのか。
→ 技術的な課題は乗り越えてきており、関係都道府県とも協力しながら計画的に処理を行い、計画期間の中できちんと終了することをお約束する。